

第45回 日本医学放射線学会秋季臨床大会

第23回 胸部放射線研究会

The 23th Annual Meeting of the Japanese Society of
Thoracic Radiology



2009・Wakayama

大会長：佐藤 守男（和歌山県立医科大学 放射線科）

当番世話人：高橋 雅士（滋賀医科大学医学部附属病院 放射線部）

日時：平成21年10月30日（金）

会場：ホテルアバローム紀の国

ご 挨拶

第23回 胸部放射線研究会当番世話人
滋賀医科大学医学部附属病院放射線部

高橋 雅士

第23回胸部放射線研究会の当番世話人を仰せつかりました滋賀医大放射線部の高橋から一言ご挨拶を述べさせていただきます。

胸部放射線研究会は、河野通雄先生のご尽力により昭和62年に設立され、その後、医学放射線学会秋季臨床大会の期間中に開催されてきました。この間、一貫して、胸部画像と病理像との対比というメインテーマに沿って、多くの貴重な症例が報告され、本会は日本の胸部放射線医学のレベル向上に多大な役割を果たして来ました。一方、昨年の本研究会の世話人会において、この胸部放射線研究会の伝統を継承しつつ、新しい試みを加えていこうという意見が出て参りました。これに従い、今年は、思い切って以下のふたつの試みに挑戦し、プログラムを作成いたしました。

- 1) 画像・病理相関にこだわらず、胸部画像診断の幅広い演題を募集する。
- 2) 要望演題を募集する。

前者については、日常の胸部臨床において、画像診断が病態の本質を指し示す場面は少なからず存在すること、また病理診断の裏付けという条件が足かせになり貴重な胸部画像が応募されなくなること避けたい、という思いがありました。今回のプログラムでは、まさしくこの趣旨に添った貴重な演題をいくつかご応募いただきました。

後者については、あるテーマについて、複数の症例を通じ、会場の先生方でより深く考察できれば、という思いで設定いたしました。今年は、“感染症がマネジメントに有用であった感染症症例、興味ある画像所見を呈した感染症症例”とさせていただきます。日本は、CT機器の普及が進んでいることもあり、感染症に関して多くのCT撮影がなされています。これらの画像は我々胸部放射線科医にとっては誠に興味深いものが多いのですが、果たしてこれらの画像、読影レポートが、感染症患者のマネジメントにどのように活かされているのかを、我々はもう一度客観的に考える必要があるのではないかと、という当番世話人の思いが背景にあります。もちろん、マネジメントに役立った症例ばかりではないと思いましたが、興味ある画像所見を呈した症例もテーマとさせていただきます。いくつかの、感染症の症例を一般演題としてご応募いただきましたが、プログラムの関係上、これらは要望演題に組み込むことは取らせておりませんのでどうかご了解ください。

座長には、安定感のある中堅の先生方に加え、多くの新進気鋭の先生方にもお願いいたしました。病理のコメンテーターには、北野病院の弓場吉哲先生と天理よろづ相談所の本庄原先生をお招きいたしましたので、それぞれの症例について、より深い病理学的考察を加えていただけるものと思います。要望演題のセッションでは、埼玉医科大学国際医療センター酒井文和先生に座長をお願いし、呼吸器内科の立場からのご考察を期待して、神戸市立医療センターの富井啓介先生に臨床コメンテーターをお願いしました。

45題の症例報告がぎっしりと詰まった濃密な一日になりますが、どうか、多くの先生方にご参加いただき、日本の“胸部放射線の今”をご堪能いただければと願います。

第23回 胸部放射線研究会プログラム

開会の挨拶

(8:40~8:45)

当番世話人 高橋 雅士

セッション1: 一般演題

(8:45~9:39)

座長: 江頭 玲子(富山大学 病理部)

病理コメンテーター: 弓場 吉哲(北野病院 臨床病理部)

01 咳嗽で発症した Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy の一例

岡山医療センター 放射線科

向井 敬

02 肺病変で発症した血管内リンパ腫の2例

亀田総合病院 放射線科

長谷聡一郎

03 多彩な画像所見を示した肺原発 MALT リンパ腫の一例

熊本大学医学部附属病院 画像診断治療科

吉田 守克

04 急性発症し、浸潤影と多発結節を呈したサルコイドーシスの一例

済生会中和病院 放射線科

甲川佳代子

05 造血幹細胞移植後に生じた生着症候群(Engraftment syndrome)と考えられた2症例

山口大学 放射線科

田中 伸幸

06 脂肪塞栓症候群の一例

慶應義塾大学医学部 放射線診断科

田村謙太郎

セッション2: 一般演題

(9:39~10:33)

座長: 川口 真平(岐阜市民病院 放射線科)

病理コメンテーター: 本庄 原(天理よろづ相談所病院研究所 病理)

07 多房性の胸腺嚢胞内に認められた胸腺腫の1例

京都大学大学院医学研究科 放射線医学講座(画像診断学・核医学)

里上 直衛

08 血清 SCC 異常高値を示し広範に腫瘍内凝固壊死を呈した B1 型胸腺腫の一例

久留米大学医学放射線教室

藤本奈央子

- 09 腫瘍内に成熟骨組織形成を認めた縦隔発生 PNET の1例
静岡県立静岡がんセンター 画像診断科 遠藤 正浩
- 10 中縦隔に発生した inflammatory myofibroblastic tumor の1例
信州大学医学部附属病院 放射線科 大彌 歩
- 11 気管支原発神経鞘腫の一例
昭和大学病院 放射線科 西城 誠
- 12 胎児 MRI にて診断可能であった横隔膜ヘルニアを伴う肺葉外肺分画症の一例
東北大学放射線科 森 菜緒子

セッション3：一般演題

(10:33~11:27)

座長：負門 克典(聖路加国際病院 放射線科)
病理コメンテーター：弓場 吉哲(北野病院 臨床病理部)

- 13 前縦隔腫瘍との鑑別が問題となった良性転移性平滑筋腫(BML)およびその悪性転化の1例
名古屋市立大学大学院 放射線医学分野 小川 正樹
- 14 縦隔原発平滑筋腫の1例
国立がんセンター中央病院 放射線診断部 牧野 崇
- 15 Pericardial synovial sarcoma の一例
神戸大学大学院医学研究科 内科系講座 放射線医学分野 西村 明子
- 16 若年者に発症した中縦隔の結核性膿瘍の1例
静岡県立静岡がんセンター 画像診断科 遠藤 正浩
- 17 骨形成を伴った悪性胸膜中皮腫の1例
国立がんセンター中央病院 放射線診断部 芝 奈津子
- 18 前胸壁に発生した脂肪芽腫の1例
大阪大学大学院医学系研究科 放射線医学講座 小山 光博

昼 休 み

(12:00~13:00)

世話人会

(12:00~13:00)

**セッション4: 要望演題(1): 画像所見がマネジメントに有用であった感染症症例、
興味ある画像所見を呈した感染症症例**

(13:10～13:55)

座長: 酒井 文和 (埼玉医大国際医療センター 放射線科)
臨床コメンテーター: 富井 啓介 (神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科)

19 菌球型気管支内アスペルギルス症の一例

神戸市立医療センター中央市民病院 画像診断・放射線治療科 越智 純子

20 肺および気管支内に多発病変を認めたアスペルギルス症の1例

長崎大学病院 放射線科 筒井 伸

21 侵襲性アスペルギルス症が疑われた1例

医療法人川崎病院 放射線科 木村 和彦

22 過敏性肺炎に対するステロイド治療中に増悪した肺アスペルギルス症の1例

尾道市立市民病院 放射線科 三船 啓文

23 エイズ患者に発症したクリプトコッカス縦隔リンパ節炎の1例

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座 狩野 麻実

休 憩

(13:55～14:05)

**セッション5: 要望演題(2): 画像所見がマネジメントに有用であった感染症症例、
興味ある画像所見を呈した感染症症例**

(14:05～14:50)

座長: 酒井 文和 (埼玉医大国際医療センター 放射線科)
臨床コメンテーター: 富井 啓介 (神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器内科)

**24 関節リウマチに対する TNF 阻害剤の使用中に *M.avium* による難治性の気胸と
胸膜炎を発症した1例**

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座 清水 哲也

25 胸膜に多発結節影を呈した *Nocardia* 膿胸の一例

慶應義塾大学放射線科 橋本 正弘

26 成人アデノウイルス肺炎の一例

九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野 陣内三佳子

27 骨髄移植後に発症した Human Herpesvirus 6肺炎の1例

大分大学医学部 臨床医学系 放射線医学講座

中山 朋子

28 肺・肝エキノコッカス単包虫症の一例

琉球大学医学部附属病院 放射線科

宮良 哲博

休憩

(14:50~15:00)

セッション6：一般演題

(15:00~15:54)

座長：新田 哲久(滋賀医大学 放射線科)

病理コメンテーター：本庄 原(天理よろづ相談所病院研究所 病理)

29 pulmonary hyalinizing granuloma の1例

東京医科大学放射線科

森川利津子

30 肺硝子化肉芽腫(pulmonary hyalinizing granuloma)の一例

産業医科大学 放射線科

花宮 舞

31 巨大嚢胞性変化を示した硬化性血管腫の1例

香川大学医学部附属病院 放射線科

室田真希子

32 特異なMRI所見を呈する間葉系腫瘍の1例

東京慈恵会医科大学放射線医学講座

氏田万寿夫

33 原発性肺骨化症の一例

自治医科大学 放射線医学教室

竹内美砂子

34 CTにて増大傾向を示し、肺腺癌との鑑別が困難であった localized bronchiolar hyperplasia の一例

聖路加国際病院 放射線科

村石 懐

セッション7：一般演題

(15:54～16:48)

座長：久保 武(京都大学 放射線科)
病理コメンテーター：弓場 吉哲(北野病院 臨床病理部)

- 35 肺内破裂した縦隔良性奇形腫の一例
滋賀医科大学 放射線科 栗延 孝至
- 36 特発性好酸球性胸水の1例
奈良県立医科大学 放射線科 三浦 幸子
- 37 肺放線菌症の1例
長崎大学病院 放射線科 林 秀行
- 38 MRI が診断に寄与した MAC 肉芽腫の2例
東京慈恵医科大学放射線医学講座 松井 洋
- 39 CT にてびまん性粒状影・結節影を呈した HIV 患者におけるニューモシスチス肺炎の1例
琉球大学医学部 放射線医学分野 神谷 尚
- 40 骨髄異形成症候群の白血化に合併した播種性ムコール症の一例
大分県立病院 放射線科 小野 麻美

セッション8：一般演題

(16:48～17:33)

座長：竹中 大祐(神戸大学 放射線科)
病理コメンテーター：本庄 原(天理よろづ相談所病院研究所 病理)

- 41 肝芽腫の単発肺転移の1例
日本大学医学部附属板橋病院 放射線科 前林 俊也
- 42 肺癌肉腫の一例
昭和大学横浜市北部病院 放射線科 大場啓一郎
- 43 持続する著明な出血を伴い、短期間で画像の変化が見られた肺癌の1例
国家公務員共済組合連合会浜の町病院 放射線科 添田 博康
- 44 嚢胞性腫瘤の形態を呈し、PET-CT が有用であった、コロイド腺癌の一例
岡山大学 医学部 放射線科 加藤 勝也
- 45 CT ガイド下術前マーキングに合併した空気塞栓症の空気流入経路が描出できた1例
天理よろづ相談所病院 放射線部 東野 貴徳

閉会の挨拶

(17:35～17:40)

代表幹事：村田喜代史(滋賀医科大学 放射線科)

1) 熊本大学医学部附属病院 画像診断治療科、2) 同 病理部

○吉田守克¹⁾、河中功一¹⁾、吉田絵里¹⁾、山下康行¹⁾、猪山賢一²⁾

今回我々は、多彩な画像所見を示した肺原発 MALT リンパ腫の一例を経験した。症例は31歳女性。検診にて胸部異常陰影を指摘され、精査目的に前医を受診した。胸部単純 CT 上、肺癌が疑われ、経皮的 CT ガイド下肺生検目的で当科紹介となった。CT では、左肺舌区の浸潤影をはじめ両側肺に多発する GGO など多彩な陰影を認めた。また、FDG-PET では、左肺舌区の浸潤影に一致して経度の異常集積が認められた。自覚症状はなく、血液検査上も特に異常所見は認めなかった。左肺舌区の浸潤影より CT ガイド下肺生検を施行した。病理組織診断は、炎症性偽腫瘍あるいは肺原発 MALT リンパ腫が疑われ、確定診断は得られなかった。治療方針決定のため確定診断目的に VATS 肺生検を依頼した。左肺舌区の浸潤影のほか、左肺の多発 GGO に対して生検が行われた。病理組織診断は肺原発 MALT リンパ腫であった。確定診断後 rituximab 単剤投与による治療が開始された。肺原発 MALT リンパ腫について画像所見を中心に若干の文献的考察を含めて報告する。

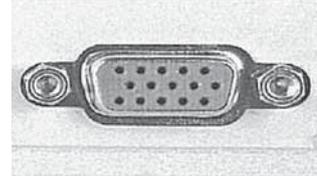
ご案内

第23回胸部放射線研究会 平成21年10月30日(金) 8:40～17:40
第3会場(ホテルアバローム紀の国2F)

口演発表者へのご案内

PCセンターは、各建物に1カ所設けております。ご発表の30分前までに必ずお立ち寄り願います。
PC発表のみ(スライドはご遠慮ください)映写は1面です。

Macintosh版のPowerPointで作成された場合や動画をご使用の場合はデータでの受付はできません。ご自身のPCをご持参ください。



D-Sub15pin(ミニ)

1. PC ご持参の場合

ノートPCをご持参いただく場合は、下記の点にご注意ください。

- 1) 出力はD-Sub15pin(ミニ)のみ対応しております。コネクタが必要な場合は、変換アダプターを各自でご持参ください。対応する解像度は1,024×768のみです。また、電源アダプターを必ずご持参ください。
- 2) PCセンターにて、必ずモニター出力のチェックを行ってください。
- 3) バックアップ用にCD-ROMもしくはUSBフラッシュメモリでご発表データをご用意ください。万一の場合、事務局で用意したバックアップPCに切り替えを行います。(バックアップPCは、OSがVista、PowerPointは2007のみ対応しております。)
- 4) ご発表時のPC接続により、ウイルスの感染事例が報告されています。ウイルススキャンをあらかじめ行ってください。

2. データご持参の場合

- 1) 事務局でご用意するPCは、OSがVista、アプリケーションは、Windows用PowerPoint2007です。文字化けやレイアウトの崩れを防ぐため、フォントはPowerPointに設定されている標準的なフォントをご使用ください。
- 2) ご発表データは5MBまでとさせていただきます。ファイル名は「演題番号__発表者姓名.ppt」のファイル名でご持参ください。5MBを超える場合、または動画を含む場合はご自身のPCをご持参ください。
- 3) ご持参いただいたメディアを介してのウイルスの感染事例が報告されています。そのメディアのウイルススキャンを行ってください。また、データをお預かりする際にもウイルススキャンを行わせていただきます。なお、メディアは、USBまたはCD-Rでお願いいたします。

3. ご発表時には演台上にディスプレイとキーボードとマウスを用意しております。ご自身で
ご操作ください。

4. 発表時間は司会者に従い厳守して下さい。発表6分、質疑応答3分を予定しております。

日本医学放射線学会・日本胸部放射線研究会 (Japanese Society of Thoracic Radiology) の歴史

河野 通雄、足立 秀治、村田喜代史、村山 貞之

History of the Japanese Society of Thoracic Radiology

Michio Kono, M.D., Shuji Adachi, M.D. Kiyoshi Murata, M.D. and Sadayuki Murayama, M.D.

Journal of Thoracic Imaging の25周年記念号の出版にあたり、JTIの編集長より、JSTRのこれまでの歩みに関する文章を投稿するよう依頼がなされ、河野通雄先生初代代表幹事にご対応いただいた。本文は、その内容の邦文訳を河野通雄先生から特別に本研究会のプログラムにご寄稿いただいたものである。

本研究会発足までの歩み

我が国における胸部疾患 (chest disease) の診療は呼吸器内科 (respiratory division of internal medicine)、呼吸器外科 (respiratory division of thoracic surgery) が担当し、放射線科 (医師、技師) は胸部はもちろん、造影などを必要としない各臓器の単純撮影を技師が担当し、読影は各科担当医が行っていた。また気管支造影や血管造影も原則として担当医が施行し診断を行った。このように放射線科は撮影機器や放射線技師の技術提供をする科であった。

放射線科医は治療担当医をのぞいて、近年 CT, MRI などの画像診断装置が導入されるまでは苦難の道を歩んできた。

個人的に Siegelman 教授に聞いたことがあるが、アメリカにおいても放射線科医と各科医との間で、かつて撮影室の取り合いがおこなわれたそうで、教授自身で撮影室の鍵を閉めて回ったとのことであった。このときの話から放射線科の運営方法において日米に10年近くの差があったようである。

RSNA への日本からの発表演題や参加者が増えるに従って、臓器別放射線医学の重要性が認識され特に胸部領域に関心が高まってきた。

Fleischner Society の活動や、Society of Thoracic Radiology の設立などに刺激されて、日本でも胸部放射線研究会 (JSTR) の発足をめざした。STR の発足から数年遅れて JSTR はスタートした。しかし研究会は JRS の傘下であることが原則であり、独立した学会としては認められなかった。

その理由は、専門分科会の設立より JRS 会員の増強が優先されたからである。

当時日本国内には、日本呼吸器学会 (the Japanese respiratory society) (内科系)、日本肺癌学会 (the Japan lung cancer society) (外科、内科、放射線科、病理など)、日本気管支内視鏡学会 (the Japan society for respiratory endoscopy) (内科系)、日本気管食道科学会 (Japanese

bronchoesophagological society) (耳鼻咽喉科系 (otorhinolaryngology)、日本胸部外科学会 (the Japanese society of thoracic surgery) (循環器 (cardiovascular)、呼吸器、食道)、など比較的メジャーな学会がありおのおの胸部画像診断に関しても研究発表がなされており、放射線科は共同発表者に過ぎなかった。この現実から脱却するために、JSTR の設立はタイムリーであった。

研究会は症例検討と特別講演という内容で継続することになった。

会の運営に関わるスポンサーは JRS のほかに、数社の企業にサポートをお願いした。

胸部放射線研究会の組織、運営

定例研究会は原則年一回とし、JRS 秋季大会と併催とし、研究会の会長は秋季大会長の併任とした。代表幹事は創立発起人代表であった神戸大学の河野通雄教授がつとめ、幹事には曾根修輔教授 (信州大)、土井修先生 (聖路加病院)、蜂屋順一教授 (杏林大)、大場覚教授 (名市大)、池添潤平教授 (愛媛大)、中田肇教授 (産業医大)、林 邦昭教授 (長崎大) が就任した (その後、順次交代)。世話人は大学、病院勤務の胸部放射線専門医が就任した。

代表幹事は第一回 (1987) より第 15 回 (2001) まで河野通雄教授、第 16 回 (2002) 池添潤平教授、第 17 回 (2003) より第 23 回 (2009) 現在まで村田喜代史教授 (滋賀医大) がつとめている。役員人事並びに交代人事や研究会運営に関しては世話人会において検討し決定している。

研究会の活動

第一回本研究会は 1987 年第 22 回日本医学放射線学会秋季大会 (会長青野要教授 (岡山大学)) に併催された。

その時のプログラムの冒頭に本会の目的が記載されている。

“本会 (胸部放射線研究会) の目的は胸部の画像診断並びに Interventional Radiology を含む放射線診療については放射線科医が指導的立場に立つ必要があり、日医放学会内でのレベルアップを計ることである。また、国内外の関連学会への積極的参画や交流の橋渡しの役割を果たすことも目的の一つである。”

初回参加者は約 180 名で、2 時間という窮屈なスケジュールのため、症例は 11 題であったが、報告には必ず放射線科医と病理医のコメントがあり、時には診断に対して異論が出る場合もあり活発な討論があった。また司会者の放射線科医と病理医との討論も聞くことができた。開催時間は、初回はわずか 2 時間であったが、徐々に増加し、現在 JRS 開催期間中一日一会場で行われ、演題数は毎年 20～30 題に登り、特別講演には国内外の講師を招聘している。

国外からは W.Richard. Webb 教授 (UCSF) ” Dynamic ultrafast high resolution CT of the lung ”、Jeffrey R. Galvin 教授 (AFI) ” Pulmonary Angitis and Granulomatosis : Radiologic-Pathologic Correlation ” など、国内からは “肺癌の病理、マルチスライス CT による胸部診断、アスベスト関連肺・

胸膜疾患の画像診断、標本観察によらないとわからない胸部画像所見について、肺がん CT 検診の現状と今後の課題、などのテーマで特別講演を行った。

プログラムには抄録とキー画像を2～3枚掲載し聴衆の討論をし易くした。

演題発表の際、放射線科医の presiding と病理医の commentator が discussion に加わるのが本会の特徴であり好評である。

また研究会の JRS に対する contribution として、“radiologic diagnosis of diffuse pulmonary disease”にかかわる小冊子を池添順平教授、村田喜代史教授、足立秀治先生など会員の協力で出版した。

JSTR の活動を international にするために、STR への積極的な参加を促すとともに、STR 並びに JTI スタッフの協力により1993年 JTI を KSTR とともに JSTR の official journal にすることになり、例会の meeting note が定期的に掲載されることになった。meeting note の内容は JSTR に一任された。その後 original article の問題もあって、JSTR の推薦論文を JTI に投稿することになった。

第19回(2006)から当番世話人制とし JRS 秋季大会長の推薦により決定している。従って会場は日本全国を順次変えておこなはれている。

本会は今年で第23回(2009)定例会を今秋に和歌山市で開催予定である。

JSTR の会員は初期登録を含めると763名(そのうち顧問、幹事、世話人合計で110名)である。本会は JRS がメインスポンサーで、一部企業の協賛を受けている。従って経理報告は JRS に行う。

国際的活動

日韓合同胸部放射線研究会、アジア胸部放射線会議 Asian congress of thoracic radiology (ACTR) (honorary member M.Kono, MD 名誉会員), 世界胸部画像診断会議 World congress of thoracic imaging (WCTI) に積極的に参加し、交流をはかっている。

特に2000年に神戸で、Fleischner Society Meeting (President, Gordon Gamusu, MD.) を河野教授が local organizer として開催したが、日韓をはじめアジアのメンバーも多数参加し盛会であった。

これらのことが交流を盛んにすることに貢献していると思われる。

また日韓合同研究会では、日本 (Prof Kiyosi Murata)、韓国 (Prof. Jung.Gi. Im) 交互に開催して交流しているが、さらに、中国、台湾、タイなどを含めた Asian Congress of Thoracic Radiology (President, Prof. Kyung Sook Lee) も開催され、thoracic radiology の発展に貢献している。

さらにイタリア、フィレンツェで行われた第一回 WCTI へも参加している。このことは2000年4月に Dr.Robert Steiner から提案があり JSTR でも了解されていた。今後は KSTR, JSTR, ETL, STR の当番で順次開催されるとのことで、JSTR として協力したいと考えている。

“JTI”も WCTI を視野に入れた編集に期待すると共に thoracic radiology への貢献を期待したい。

第2回世界胸部放射線学会報告

国立がんセンター中央病院 放射線診断部 楠本 昌彦

オレンジの名前でわが国でも知られるバレンシアは、地中海に面するスペイン第3の都市です。そのバレンシアで第2回世界胸部放射線学会(2nd World Congress of Thoracic Imaging and Diagnosis in Chest Disease : WCTI)が、2009年5月30日から6月2日までの4日間行われました。第1回が2005年にイタリアのフィレンツェで行われてから4年ぶりの開催となりました。地元スペインの Jose Vilar 教授が会長なって催されました。会場となったのは市街中心部よりやや離れたところにあるバレンシア・カンフェレンスセンターという真新しい会議場で、2つのホテルも隣接されており、どうやら最近できたコンベンションコンプレックスのようでした。

参加者数は主催者の発表によると1,300名を越えたようで、地元スペインやヨーロッパ各国はもちろんのこと、南北アメリカ大陸、アジア各国からの参加も多数みられました。わが国からの発表者は、プレナリーセッションが1題、教育講演が2題、一般演題の口演発表が5題、ポスター展示が37題で、参加登録した人はおそらく50名を越えると思われるが、開催直前にわが国をおそった新型インフルエンザの問題で渡航を残念された先生方が相当数いらしたようで、現地でお目にかかった日本人の参加者はそれよりは少なく感じられました。

プレナリーセッションでは、近畿中央病院の上甲先生が特発性間質性肺炎について、教育講演では旭川医大の高橋康二先生が縦隔疾患、神戸大学の野野良治先生がMRの機能画像について外国人演者に混じって講演をされた。またフィルムインターインタープリテーションでは4チームに各国の代表メンバーが分かれ、我々が村田先生(滋賀医大)は、The Vikingsなるチームの一員として参加し、見事に名答されました。また画像による疾患当てクイズに混じってのトリビアの問題も出題され、会場を沸かせました。

今回の開催中天気はすべて晴れで、雲ひとつない青い空を見ることができました。それでも地中海式気候のからっとした暑さで、晴れ渡った青い空のもと、爽快な気分になることができました。バレンシアはパエリアの発祥の地のようで、さらにそれ以外にも美味しい食べ物がたくさんあります。夜には市内のレストランで、参加者同士で楽しく過ごすことができました。

第3回は2013年に韓国ソウルでの開催が決まりました。次回はお隣の国での開催であることからわが国からも多数参加し、少しでも貢献したいものです。



写真は会場内で。

向かって右側が静岡がんセンターの遠藤正浩先生、左側が筆者

第15回中国四国胸部画像カンファレンス

日 時：平成20年11月8日(土) 12:00～17:00

場 所：オルガホール

〒700-0026 岡山市奉還町1-7-7 オルガ地下1階

当 番 世 話 人：川崎医科大学 放射線医学(画像診断) 玉田 勉
当 番 顧 問：川崎医科大学 放射線医学(画像診断) 伊東 克能
病理コメンテーター：川崎医科大学 病理学1教室 講師 伊禮 功
事 務 局：香川県立保健医療大学 佐藤 功

プログラム

座長：徳島大学 放射線科 上野 淳二

出題者

解答者

- | | | |
|---|---|------------|
| 1 | 香川大学 室田真希子 lipoid pneumonia の1例 | 山口大学 田中 伸幸 |
| 2 | 徳島大学 能勢 歩美 長期経過を持つ Mucinous adenocarcinoma, Bronchioloalveolar carcinoma | 島根大学 中村 恩 |
| 3 | 川崎医科大学 東 浩樹 咳嗽を主訴に発見された肺クリプトコッカス症の1例 | 高知大学 片岡 優子 |

《 休 憩 》

座長：川崎医科大学 放射線科 谷本 大吾

- | | | |
|---|--|------------|
| 4 | 鳥取大学 仲松 暁 健診にて両肺多発結節影を指摘された Epithelioid hemangioendothelioma | 岡山大学 宇賀 麻由 |
| 5 | 国立病院機構高知病院 松岡 葵 多発肺結節影の Interstitial pneumonia (NSIP cellular > fibrosing with OP pattern), possibly preceding to collagen vascular disease | 広島大学 石川 美保 |
| 6 | 山口大学 田中 伸幸 労作時呼吸困難を主訴とし、軽度のびまん性陰影を呈する NSIP. cellular > fibrotic 粉塵暴露に続発した肺胞蛋白症 pulmonary alveolar proteinosis | 鳥取大学 岡田 順子 |

共 催：胸部放射線研究会中国四国支部

沖縄胸部画像診断フォーラム
第5回 日韓胸部放射線会議
第2回 呼吸機能イメージング研究会学術集会

日 時：平成22年1月29日(金)～31日(日)

場 所：沖縄コンベンションセンター
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1

沖縄胸部画像診断フォーラム

第5回 日韓胸部放射線会議
第2回 呼吸機能イメージング研究会学術集会



2010.1.29.(金)～31日(日)
沖縄コンベンションセンター

演題登録(募集)期間

2009.7.21.[火]⇒2009.9.30.[水]まで

学術集会 URL

<http://www.okinawa-congre.co.jp/kjstr5-jspfi2/>

○ 演題募集はホームページ上から行います。

学術集会事務局

琉球大学医学部 放射線医学分野

〒903-0215
沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
TEL: 098-895-1162 FAX: 098-895-1420
E-mail: yukitomo@eve.u-ryukyu.ac.jp

Dear Colleagues,

We would like to express our warmest welcome to invite you to the “5th Joint Meeting of Korean-Japanese Societies of Thoracic Radiology” in Ginowan, Okinawa on January 29th-30th, 2010.

It is our greatest conviction that we will have an excellent scientific meeting during these days. The meeting will contain two symposia, two luncheon seminars, one special topic presentation, and a “unique” image interpretation session. The poster presentation will also be open to general attendees, and we encourage young staffs and radiology residents to submit their case reports and clinical research.

Okinawa is a subtropical island, and even in January the mean temperature is more than 10° C, then, you can play golf on the beautiful coral island. Also, you may enjoy the traditional Okinawan food and life style.

We hope that the members of both societies will make good friendship and all attendees will take home valuable scientific knowledge from the special talks of this meeting.

I look forward to seeing you next January in Okinawa!

Sadayuki Murayama, M.D.
President of the 5th Joint Meeting of
Korean-Japanese Societies of Thoracic Radiology

5th KJSTR Meeting, tentative schedule

President of the meeting: Sadayuki Murayama, M.D., University of the Ryukyus

Place: Okinawa Convention Center at Ginowan, Okinawa

January 29

| | |
|-------------|---|
| 10:00- | registration |
| 12:00-12:05 | opening remarks |
| 12:05-12:50 | Luncheon seminar 1 Dr. Harumi Itoh |
| 13:00-14:30 | Symposium I: CT of Pulmonary Infectious Diseases |
| 14:45-16:45 | Topic presentation 1 Honeycomb Lung vs Emphysema |
| 17:00-18:20 | Poster session |
| 19:00 | Welcome Reception at Laguna Garden Hotel |

January 30

| | |
|-------------|--|
| 08:00-08:50 | Business meeting |
| 09:00-09:15 | Award |
| 09:15-10:15 | Symposium II: new modality of thoracic imaging |
| 10:30-11:45 | Film Interpretation |
| 11:50-12:40 | Luncheon seminar 2 |
| 12:45 | Closing remarks |

Journal of Thoracic Imaging への掲載について

Journal of Thoracic Imaging (JTI) は、Society of Thoracic Society (STR), Japanese Society of Thoracic Radiology (JSTR), Korean Society of Thoracic Radiology (KSTR) の Official Journal で、Impact factor 0.763 (2001) の雑誌です。

2002年のRSNAにおいて開催された編集会議において、日本の胸部放射線研究会事務局と雑誌編集事務局の間で、以下の点が合意されました。

日本の胸部放射線研究会によって査読され採用が決定された3つの英文の Case report を JTI の review を省略して Journal of Thoracic Imaging にまとめて掲載する。

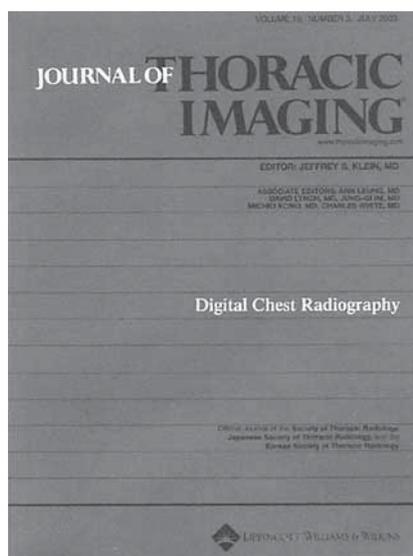
今後の予定

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 本年10月30日 | 胸部放射線研究会 |
| 12月 | 世話人の推薦による JTI 候補演題の決定、論文執筆の依頼 |
| 来年3月 | 論文締め切り |
| 4月 | 査読 |
| 5月 | 改訂および再投稿 |
| 6月 | JTI に3論文送付 |

JTI 日本事務局：琉球大学医学部放射線医学分野

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207

TEL：098-895-1162 FAX：098-895-1420



NPO 法人について

事務局では胸部放射線研究会が独自の財政基盤を持ちながら、学術集会ばかりでなく、種々の活動を推進していくために、NPO 法人を2003年11月に設立しました。胸部放射線医学に興味をもち発展を願う人なら誰でも参加できる組織で、法人格を得て種々の活動を積極的に進めていこうとするものです。

名 称：特定非営利活動法人(NPO 法人) 日本胸部放射線医学研究機構
Japan Thoracic Radiology Group (JTRG)

事 業：・胸部放射線医学領域における学術振興のための研究会開催の支援
・胸部放射線医学領域における多施設共同臨床研究の支援
・胸部放射線医学領域における民間機関との共同研究の支援
・胸部放射線医学領域における国際協力活動あるいは共同研究の支援
・医療従事者ならびに社会一般に対する胸部放射線診療の広報活動

正会員(個人)：年会費 1万円

準会員(企業)：入会金 2万円 年会費 2万円

このNPO 法人に興味をもたれ、資料や入会申込書等を必要とされる方は、E-mailにて胸部放射線研究会事務局まで氏名、所属機関名、連絡先住所、電話番号をお知らせください。資料を送らせていただきます。

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学放射線医学教室内
胸部放射線研究会事務局
TEL：077-548-2288
FAX：077-544-0986
E-mail：hqradiobelle@shiga-med.ac.jp

第23回 胸部放射線研究会 プログラム・抄録集

発行：胸部放射線研究会

事務局：滋賀医科大学放射線医学教室

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-2288

FAX：077-544-0986

E-mail：hqradio@belle.shiga-med.ac.jp

制作：Secand 株式会社 セカンド

熊本県熊本市水前寺4丁目39-11

TEL：096-382-7793

協賛・広告掲載会社一覧

石黒メディカルシステム株式会社
エーザイ株式会社
株式会社エルクコーポレーション
株式会社京都医療設計
株式会社京都科学
財団法人近畿健康管理センター
コニカミノルタヘルスケア株式会社
ザイオソフト株式会社
GE 横河メディカルシステム株式会社
シーメンス旭メディテック株式会社
塩野義製薬株式会社
第一三共株式会社
タイコヘルスケアジャパン株式会社
大正富山医薬品株式会社
株式会社たけびし
株式会社ダテメディカルサービス
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本メジフィジックス株式会社
株式会社根本杏林堂
バイエル薬品株式会社
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

〈50音順〉